



世田谷区政と議会のホンネを報告!

せたがや 1/50

(区議会の定数は50名そのうちの1名という意味)

〒157-0063 粕谷3-15-3 (TEL&FAX 3307-1179)

グーグル検索等で、おおば正明 と入力すれば おおば正明 @ 世田谷区議 がヒットします。私のホームページです。

地域での困りごと

- 1位 道路が狭くて危険
- 2位 カラス等の被害
- 3位 住宅が密集しすぎている (2014年区民意識調査より)

役所情報・不正そのほかとんでもないことを御存知の方はメールで

110ban@t3.rim.or.jp

http://www.t3.rim.or.jp/~110ban/
 http://ooba.muse.bindsite.jp/
世田谷行革110番
 世田谷区議会議員 **おおば正明**
 第54号 2015年2月

前代未聞! 区長が教員になりすます? 許されない!! 財政規律の緩み

予算書を外遊した保坂区長

信じがたい話ですがホントの話です。昨年のゴールデンウィークの直前に、保坂区長がオランダへ“教育視察”に行くことが発表されました。ああ、また保坂区長のワガママが始まったな、と思った私は、「その予算は予算書のどこに載っていたのか」問い詰めました。予算委員会は半月前に終わったばかり。その予算委員会でも保坂区長がオランダに行くことなど聞いたこともありません。それになぜオランダ? オランダに関する話すら教育委員会から聞いたことがなかったからです。

案の定、予算書には載っていません、という回答。これだけでも「議会軽視」のそしりは免れられません。さらに予算の帳尻が合っているとすれば、区長の“視察”の費用はどこから出たのか? まさかウラ予算なんかじゃないだろうね、と問い詰めました。すると返ってきた答えは「教職員研修費から出ています」という驚きの回答。「教職員研修費」というのは読んで字のごとく、

世田谷区の小中学校の先生(教員)の研修のための予算です。(正確には「教育公務員」が対象です。)

誰が考えても、保坂区長は教職員ではありません。もちろんその資格もありません。その彼がどうして「教職員研修費」でオランダに行けるのでしょうか?(教員になりすました?)

しかもオランダ視察は区長一人ではありません。区長の他に6人もの“お供”を連れてのツアーなのです。(6人は一応、教育公務員)その予算額は685万円。世田谷区の「教職員研修費」予算の約4分の1を占めています。

要するに3月の予算委員会ではこのことが議会に伏せられ、予算案が可決された翌月になって、実は区長の公費海外旅行がありました、という報告をしたのです。都合の悪いことは議会で審議させない保坂区長のやり方は民主主義の否定です。しかも悪質な手法です。世田谷区議会は保坂区長の「だまし討ち」に遭ったのです。



「区長の海外視察」って何だ?

10ヶ月たってわかったこと 著作本の取材旅行だったオランダ視察

世田谷区には海外姉妹都市が3つあります。それぞれ小学生や中学生どうしの交流が毎年行われたり、世田谷ハーフマラソン等のスポーツ交流も行われております。また締結年の周年の節目には区長や議長が訪問したり、また姉妹都市の市長等が世田谷を訪れたりしています。

この場合、つまり外国とのお付き合いについては区長の立場は「世田谷区民を代表して」という部分が強調されるはずですが。しかも今回の視察のように全額公費であればなおさら、何の目的で行くのか?それは世田谷区にとって特に緊急性を要することなのか?またゴールデンウィークという「超割高な時期」になぜ行くのか?という審議が無視され、左欄に書いた通り、議会を「だまし討ち」にして強行されたのです。

公私混同区長

海外事例を勉強するため税金でオランダに行った保坂区長はそれをネタに講演会をするは、原稿料もらって執筆するは、本まで出してしまっ...



左は昨年9月出版された保坂区長の本。選挙公約の裏切りや汚染状況重点調査地域に指定されている川場村へ小学生を送ることへの批判が議会で言われていることは一切無視。替わりにみんなんで考えれば寛容さが生まれ、何でも解決するような善人ぶり全開。さらに世田谷区の海外教育視察報告書の文章は、朝日デジタル及び本書に使い回し。

姉妹都市	締結年
ウィニベグ市(カナダ)	1970年
ドゥブリン区(オーストリア)	1985年
バンバリー市(オーストラリア)	1992年

ここがヘンだよ保坂区長

その後、色々なことが明らかになりました。今回の視察の目的はオランダの教育です。4月28日(昨年)の区長記者会見で次のように保坂区長は述べております。「教育関係の予算も最終的には判断、策定をし、決定する責務を私が負っている。したがって、教育に関わること、とりわけ海外での事例についてしっかり勉強することは、教育委員会、あるいは現場の責任ある教員にとって必要だが、同時に私にとっても有用なことである。」

これは「問題発言」であり同時に保坂区長のホンネが透けて見え、まさに正体見たりです。まずサラッと聞き流すと流暢に聞こえますが、こうやって文章に起こすと、何を言っているのかわかりません。(これは保坂氏の本質です)

まず前段は、私には教育予算を決める責任がある、とでも言いたいのでしょうか。しかし決めるのはあくまで予算「案」です。審議し議決(可決・否決含めて)するのは議会の責任なのです。

そして後段、海外での事例を勉強することは私にとって有用だ、と前段とは全く関係のないことを言っていますが、この勉強とは公費を使っただけの勉強のことです。

要するに保坂区長のホンネは“オランダに行くのは海外事例の勉強なんだから税金使ったっていいじゃないか”ということなのです。

ここがヘンなのです。世田谷区にとって税金を使った海外事例の勉強が最優先で必要でしょうか?もちろん国際都市といわれる地方自治体もありますし、また世田谷区固有の問題を海外事例を参考にすることが将来あるかも知れません。世界的な平和運動というものもあるかも知れません。その場合は、区民にとっても、議会にとっても広く認知された問題でなければなりません。

外見は区長、中身は国会議員?

今回のように地方自治体のトップが唐突に海外事例を勉強するために、それも自ら進んで外国に行くということは考えられません。これは国会議員の発想です。国会議員なら所属する委員会の関係で海外事例を勉強することは充分有り得るでしょう。

保坂話法についてご注意!

※区長は公正・公平な政治姿勢が常に求められ、その延長線上に選挙による審判があります。できる事とできない事を、それこそ予算の責任者として明らかにしなくてはなりません。しかし現状の保坂区長は、あらゆることについて「考えています」という話法テクニックで気を持たせ、期待感を煽っています。4年前の区長選で保坂氏に期待した人々が今どうなっているか考えてみて下さい。

“事件”を伝える 2014年4月29日の東京新聞

世田谷区長、GWオランダ視察

議員らから疑問の声

世田谷区の保坂区長が、来月四〜九日の日程でオランダへ教育視察に行くことが分かった。区から議会に正式に説明があったのは、今月二十三日の文教常任委員会の席上。委員からは「報告が遅すぎる」「なぜオランダなのか」との声が上がった。

保坂区長は二十八日の会見で「オランダは子どもの幸福度が世界一。教育のあり方とどう関わっているのか、区立学校の環境整備に責任を持つ区長としてしっかり見て区民に報告したい」と述べた。

参加者は保坂区長のほか、堀恵子教育長、区立小中学校の校長四人、区教育政策部副参事の合わせて七人。ハイク市と周辺の小中学校などを視察する。

予算六百八十五万円は、本年度当初予算では職員研修費に含まれていて、三月の予算委員会では説明がなかった。詳細を詰めるのに時間がかり、議会への報告が遅れた」と説明する。(小形佳奈)

公費視察に抵抗した財務担当者を飛ばした区長

■実は私だけではなく、多くの区議会議員が、保坂区長は国会議員のつもりで仕事をしているのではないかと疑っています■国会議員と区長とは仕事内容が異なります■区長には5千人からの部下がいます■この5千人の部下に機動的に働いてもらわなければなりません■そのためには行政計画をつくります。この行政計画は、言わば5千人の部下にとって地図のようなもので一人一人が区役所のどの位置に居てどの方向に向かっているかが、わかるようになっていきます■この行政計画は5年、10年の期間ででき

こんな所に区長の海外旅費が685万円も隠されていたなんて! 誰にもわかりません

予算書の355ページ (単位は千円)

教育指導関係運営費	1,165,275
1 小中学校連合行事(教育委員会事務局)	45,813
2 学校保健指導(教育委員会事務局)	854
3 学校給食管理指導(教育委員会事務局)	150,404
4 教職員研修(教育委員会事務局)	27,424

ていますが、これらを総合して年度単位に作り直したものが予算です■「お役所仕事」と言われるくらい、意外と厳密な手続きで動いているのです■さて保坂区長はこのオランダ視察のかなり前から自由に「公費での海外視察」ができないか、と区の財政担当者と揉めていたといえます■その担当者は区長の公費視察なんてあり得ないと頑張っていたのでしよう。しかしオランダ視察の直前他の部署に飛ばされました。